

「中国でインターネット封鎖をめぐる相対的見方」

21 世紀になると、中国の経済や軍事の面での発展はかなり急速している。一方、中国の民主化及び国民への保障はますます劣悪になってきます。現在、中国政府はインターネットへのひどい管制を行っている。インターネット管制という政策が必要なのか？

1) 中国でのインターネット封鎖の実態¹

中国憲法三十五条には、中華人民共和国公民は、言論、出版、集会、結社、遊行、デモの自由があると定められている。²だが、中国での所謂「自由」は政府による管制されているものだ。パソコンの普及につれて、2010 年 11 月まで、インターネットを使う中国人の数は 4.5 億となった。香港以外の中国大陸のインターネットは政府のコントロールでローカルエリアネットワークになり、海外のネットを繋がることができなくなってしまった。一般的 facebook, youtube, VOA などの大手会社のネット、そして日本の Yahoo も繋がれない。BBS で政治、宗教、色情などのキーワードに関連する話題を出ると、ネット管理者は強制削除される。政府がインターネットを検閲するため、少なくとも人民元 60 億（日本円約 780 億円）を投じた。³今更、政府がインターネット監視システムを操作するため、大量の警察やネット警察を動員。また数十万のネット警察で中国国内のネットを検閲し、自分にとって都合の悪いネットを弾圧し、いろんな情報をフィルターして封鎖している。

中国大陸 Google の中国語ニュースサービスは中国共産党が禁止しているネットサイトの情報を削除している。同じ検索でも、大陸の Google と日本の Google で、その結果が異なっている、Google が自動的に中国共産党が禁止しているサイトの情報を削除している。

中国大陸のブログで日記を書くときに、国家レベルのキーワードに関連したら、文章を發表できず、管理者は人毎に文章を審査をして、適当でない部分は勝手に削除する。さらに、キーワードを追跡して、ネット警察が違反者を突き止め、異なる意見をもつサイトの IP を封鎖している。

更に、中共当局に「国家政權転覆罪」として、投獄された実例がある。元「福州日報」取材部の李長青・副主任は 2005 年、博訊ネットで政府当局に対し、 Deng 熱疫病情報の隠蔽を譴責したとして 3 年の懲役刑を言い渡された。当時、博訊ネットで Deng 熱が報道されてから、政府当局はようやく疫病は福州で発生したことを認め、すでに 1 ヶ月間隠蔽し続けていたという。⁴

2) 中国民衆の反響

現在、インターネット封鎖に対する反響は、中国人の中で三つの態度がある。まず、インターネット管制に対する賛成する人がいる、自由ということは限界がある。自由であるアメリカでも、人の言論などのコントロールすることは全然ないのかと思っている。中国人の数が多いため、政府が言論や自由を管制しないと混乱を起こすかも。

そして、反対する人もいる。人権侵害ということは犯罪だ、人間として自由があることは当たり前でしょう。真相を分からず、政府に左右するのは政府の専制は前よりも更にひどくなる。

最後、多くの中国人が政治に対して無関心であったり、金銭を満足させれば、自分の権利を守らないことは意に介さない。なので、ブログで文章を発表できなことや、政府に騙されることを経験したが、反対しても政府が廃止しないでしょうという態度を持っている。

3) 中国のインターネット管制の変

日本に来てから、日本でインターネット規制が有るかどうかを考えながら調べてきた。2008年に日本の「青少年ネット規制法」⁵が参院で可決・成立した。法律では、有害情報として「犯罪や自殺を誘引する情報」「著しく性欲を興奮させる情報」「著しく残虐な内容の情報」などと例示。青少年が有害情報を閲覧する機会をできるだけ少なくすることを目的とし、フィルタリングソフト・サービスの普及などを促している。青少年は事に対する好奇心が満ちている、間違っって横道にそれるやすい年齢層である。なので、不健康な内容を管制すべきだと思う。しかし、中国のインターネット管制が変なところがある。

まずは、中国にはネット管制について法律の条文が公布されなかった、つまり政府は無形的に法律を違反するような形で管制している。そして、管制内容や目的から見れば変なところをすぐに分かる。中国にいと、海外のサイトが全く繋がれない。日本にいと、全世界のサイトを見られ、中国のサイトも見られる。日本の大手サイトで色情な写真や広告が見られないが、中国のサイトであちこち不健康な内容や偽りの広告が載せている。中国での封鎖されている内容なら、管制すべきものは管制しないまま、社会問題や自分にとって都合の悪いネットを弾圧し、いろんな情報をフィルターして封鎖している。なので、日本は青少年の安全のためにネットを管制しているのに対し、中国政府は自分を守るために管制を行う。

もう一つの点は、今はネットを利用し悪意をもって人をそしることや、悪用しようとする人間が出て来てしまう。中国のBBSでコメントの中で汚い言葉はよく見られる、だが、面白いのは政府に対する、中国の政治人物に対する汚い言葉が出るとすぐ削除される、それに対して、韓国や日本及び他の国に対するどのような汚い言葉が出ると、管理員は見過ごすばかり。更に、無料な歌や映画は中国のサイトで見られ、ダウンロードできる。著作権侵害のようなことを中国法律で禁止されているが、政府は全然管制しないということである。

4) 中国式のネット封鎖がもたらした影響

まずは、中国人に影響が一番深刻である。国民の言論自由や人権を奪う、長期にわたる一方的な情報に手に入れたら、正しい世界観を培うことができず、真相を知らずまま考え方が極端となる、国民の思想をコントロールされる。潜在意識で奴隷化される。

そして、中国社会に影響も受ける。政府が隠したい事実は万一の失敗もないではないだろう。このように、社会問題や不公平を知ってきた人々は政府にの不満や不信任が強くな

る。民衆の怒りをかうやすくなってしまう。多くの人は事件を起こしても無事を偽って報告することや政府に功績や徳行をむやみに褒めたたえることはやめてほしい、正々堂々と政府の責任を果たしてほしいと望んでいる。

最後は、世界各国に影響も多少とも受けるというわけだ。中国のうわべを見ればかりなので、中国今経済上昇しているうちに、海外の会社は次々と中国に工場や店などを開設し、海外の投資者が中国に投資を続けている。しかし、中国の経済成長が始まって以来、崩壊の道を辿っており、年金制度の前借金は2兆元も超え、失業率20~40%の現状、貧富格差のジニ指数はすでに0・60を超え（0・40を超えると社会不安定を招く）などの中国社会の現状は知らないはずだ。このような中国の現状を知らなかったこそ、数年前、台湾からの中国投資ブームが広がっていて、多くの会社は投資が失敗し倒産にってしまった。

5) まとめ

もちろん、インターネットを使用して様々な良し悪し情報を手に入れるし、インターネットを犯罪の道具として使われることもある。国民の安全を守るためにの規制は法律の面から見れば、人道主義の立場に行う政策である。これに対して、中国式のようなネット管制は法律を凌駕することである。専制主義の立場に行う政策である。

このように、ネット封鎖について、政策の目的から見たら、中国式のネット封鎖は廃止するか保留するかをはっきり分かれるはずだ。

¹ インターネット規制をさらに強化した中国（CFR ブリーフィング）
www.foreignaffairsj.co.jp/wadai/PDF/CFR_Update/142chinainternet.pdf

² 中国人民共和国憲法 http://www.gov.cn/gongbao/content/2004/content_62714.htm

³ 中国共産党、インターネット封鎖に60億人民元（大紀元日本）
<http://www.epochtimes.jp/jp/2005/04/html/d50057.html>

⁴ 中国ネット封鎖の実態（大紀元日本）
<http://www.epochtimes.jp/jp/2007/05/html/d93726.html>

⁵ 「青少年ネット規制法」成立（ITmedia News）
<http://www.itmedia.co.jp/news/articles/0806/11/news056.html>